置、又人糞を入、右の如すること三度にして雨を除置、二月比墾て日にさらし植る也、根分は九十月比、根もとより出たる芽を分とりて別に植て、蘆簾を低かけ霜を除置、春にいたり清明の頃に植、尤花壇へ瓶の大さに星を掘、其中へ右の肥土へ鳥の屎と、烟草の莖を切まぜて、星一ッに菊一本植べし、又六七月の間に一度糞汁を根廻へ入たるもよし、肥を多く澆ば葉枯るもの也、菊譜云、養花易、養葉難、又曰、糞水葉に著べからず、泥あれば洗べし、又曰、以韮汁澆根妙、又清明の頃分植るもよし、何も舊根をよく去べし、宿根より虫を生るゆへなり、菊經曰、死蟹釀水澆灌不生莠虫、花鏡云、魚腥水去蛙、蚯蚓地蚕傷根、以石灰水灌之自死、速將河水連澆、以解灰毒、若黑蚰脊其皮、以麻裹筋頭、捋之則出、若象幹蟲（似蠶青蟲與葉一色）食葉須早起以針尋其穴刺殺之、菊藥ニ入ものは甘菊、野菊等なり、花を賞するは、中菊大菊なり、其中菊の作樣は、扇造、帚造、色々あり、根を曲ざるは、早く梢を切て枝をふかせ、五六月迄は切てよし、夫より一枝に花一ッ著、其外の枝莟は皆摘去べし、初より竹或は葦をそへ、琉球席のほつしにて結付てよし、是は帚作なり、又根を曲て作るには、莖を土へ伏て、竹の枝を以て挾、土へさし込て止るなり、是は扇作なり、又大菊などは四五月頃雨天のせつ、勢よき梢又幹を管に切て、肥土へ插、根を生じて人糞汁を澆ば、甚よく肥て花大に咲ものなり、夏菊は八月根を分植てよし、寒菊の類皆秋分るなり、又ふだん菊は夏より冬まで花咲ものなり、總て菊の手入は大概を玄るすゆへ、必是に止ず、漢土の菊の類は菊譜に見へたり、又植樣は種樹書に見ゆ、

〔草木六部耕種法十需花〕菊ハ品類極テ多ク、其名目勝テ記載スベカラズ、何トナレバ菊ハ其種子ヲ蒔テ生ジタルハ、其花形色種々ニ變ズル者ナルガ故ナリ、凡ソ菊ハ培養ヲサヘ懇到ニスレバ、實ヲ蒔モ、幹ヤ枝ヲ插モ、葉ヲ插モ、皆能ク活者ナリ、故ニ珍花ヲ世ニ弘ズシテ秘藏スルニハ、其菊ヲ栽タル處ニ、人ノ近寄ヲ禁ズベシ、若夫葉ヲ盜採スルトキハ、直ニ插テ活モノナルヲ以テナリ、凡菊ヲ作ルニハ、高燥ノ地ヲ良トシ、濕地ニ宜カラズ、菊ノ實ヲ蒔ニハ、春分頃ニ山野土カ、黑鬆土カ